

インフルエンザワクチンの接種について

実施期間・助成金額・実施場所

実施期間: 令和7年10月1日(水)～12月30日(火)

助成金額: 満1歳～12歳

1回につき**1,000円**の助成 **2回**まで

13歳～18歳

1回につき**1,000円**の助成 **1回**まで

妊婦

1回につき**3,000円**の助成 **1回**まで

※差額については、各医療機関窓口にお支払いください。

実施場所: 岩瀬管内の受託医療機関

※2回接種の場合、**2回目は1回目から2～4週間**あけます。**(4週間あけるのが望ましいです。)**

※経鼻ワクチンの接種は1回で完了します。
妊婦の方は経鼻ワクチンの接種はできません。

ワクチンの効果と副反応

予防接種により、インフルエンザ感染を予防したり、症状を軽くしたりすることができます。また、インフルエンザによる合併症や死亡を予防することが期待されます。

一方、副反応は一般的に軽微です。皮下接種においては、注射部位が赤くなる、腫れる、硬くなる、熱をもつ、痛くなる、しびれることや発熱、悪寒、頭痛、倦怠感、まれに発しん、蕁麻疹、湿疹、紅斑、多形紅斑、かゆみなども起きることがありますが、通常は2～3日で消失します。強い卵アレルギーのある方は、強い副反応を生じる可能性がありますので必ず医師に申し出てください。経鼻接種においては、鼻水、鼻づまりなどの鼻炎症状や咽頭痛、頭痛、咳、まれに発しん、蕁麻疹などが起こることがあります。

非常にまれですが、次のような副反応が起こることがあります。(1)ショック・アナフィラキシー(蕁麻疹、呼吸困難、血管浮腫等)、(2)急性散在性脳脊髄炎(ADEM)(通常、接種後数日から2週間以内に発熱、頭痛、けいれん、運動障害、意識障害等)、(3)脳炎・脳症、脊髄炎、視神経炎、(4)ギラン・バレー症候群、(5)けいれん(熱性けいれんを含む)、(6)肝機能障害、黄疸、(7)喘息発作、(8)血小板減少性紫斑病、血小板減少、(9)血管炎(IgA 血管炎、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症、白血球破砕性血管炎等)、(10)間質性肺炎、(11)皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson 症候群)、(12)ネフローゼ症候群。

(1)～(12)のような症状が認められたり、疑われたりした場合は、すぐに医師に申し出てください。なお、健康被害が生じた場合の救済については、健康被害を受けた人または近親者が、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づいて手続きを行うことになります。

予防接種が受けられない人

1. 明らかに発熱がある人(37.5℃を超える人)
2. 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
3. 過去にインフルエンザワクチンの接種を受けて、アナフィラキシーを起こしたことがある人

なお、他の医薬品投与を受けてアナフィラキシーを起こした人は、接種を受ける前に医師にその旨を伝えて判断を仰いください。

4. その他、医師が予防接種を受けることが不相当と判断した人

予防接種を受ける際に医師とよく相談しなければならない人

1. 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気や発育障害等の基礎疾患のある人
2. 予防接種を受けた時に、2 日以内に発熱、発しん、蕁麻疹などのアレルギーを疑う異常がみられた人
3. 今までにけいれんを起こしたことのある人
4. 過去に本人や近親者で検査によって免疫状態の異常を指摘されたことのある人
5. 間質性肺炎、気管支喘息等の呼吸器疾患のある人
6. 薬の投与または食事(鶏卵、鶏肉やゼラチン含有の食品)で皮膚に発しんが出るなど、体に異常をきたしたことのある人
7. 妊娠の可能性のある人 ※妊娠している人は経鼻ワクチンは接種できません。

予防接種を受けた後の注意

1. インフルエンザワクチンを受けたあと 30 分間は、急な副作用が起きることがあります。医療機関にいるなどして、様子を観察し、医師とすぐ連絡をとれるようにしておきましょう。
2. 接種当日の入浴は差し支えありませんが、注射した部位をこすことはやめましょう。
3. 接種当日は、接種部位を清潔に保ち、いつも通りの生活をしましょう。(はげしい運動は控えましょう。)
4. 万一、高熱やけいれん等の異常な症状が出た場合は、速やかに医師の診察を受けてください。